三育だより

２０２６年３月23日発行
２０２５年度第３号

学校法人三育学院 東京三育小学校
〒177-0053 練馬区関町南2-8-4
TEL 03-3920-2450
URL https://www.tokyosaniku.ed.jp/

校訓「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。」(口語訳聖書)

「本の中の本：聖書」

学校長　平田　理(ひらた まこと)

「The Book」。聖書とシェークスピア全集にのみ利用される、英語での呼称です。

若干25歳の若き芥川賞作家(第129回)鈴木結生氏(すずき ゆうい)の講演を拝聴し、問答する機会に恵まれました。先ず驚かされたのは語彙の豊かさと、青年とは思えない深遠な思考の持ち主であること。その話しぶりや質問への返答の質から感じることができました。回答での言葉遣いは現代の青年的な選びを織り交ぜながらも、熟達した学者のようでした。

精密機械の設計の仕事から牧師へ転職した父親と、音楽や絵画、文学を愛する母親に育てられ、教会学校に通い、聖書を読み込み、礼拝説教を数多くに耳にしてきたのです。幼少期や家庭環境を伺うにつれ、「なるほど」と納得することができました。

そればかりか、少年時代から教会での子ども礼拝を主催し、子どもながらに礼拝時の説教を交代で担当するような仲間たちに囲まれて育っていました。現代においてもかなり特別な家庭環境や教育環境に居たといえます。書くことや読むことが日常にあり、それを語ることを好んで育った鈴木氏は、幼い時から読み聞かせをせがみ、絵を描き、音楽を奏で、作品を構想する訓練を重ねたことになるのです。

そんな鈴木氏が愛読し、愛聴したのが、宮崎駿氏が脚本執筆した長編映画「耳をすませば」(1995年)という「読書と初恋」が主題の作品でした。読書の喜びと初恋のときめきを並列して描くことで、「好き」を深めたり、広めたりすることが人を如何に変え、また、大切であるかと教えてくれます。その本の中で、宮崎氏は「いつか自分がつくりたい本」について語り、「世界のことが全部書いてある本」を理想としていて、「聖書」を理想に近い本として例に挙げています。鈴木氏はその意見を尊重しつつも、「聖書こそが世界を網羅する唯一の書物である」と主張していました。更には「こんなに面白い、奥深い、思想を啓発される書物は無い、だから The Book なのだ」とも。

キリスト教の聖典としては勿論、古典文学としても価値ある書物を愛読しているかと問われると、そこに聖書を位置づけていないことは、鈴木氏曰く「もったいない」こと、です。

確かに聖書を読み進めると名前の羅列や見慣れない都市名、ヘブライ文化を理解しないと読み進めないような難解な表現も数多くあります。全てを理解することを目的とすれば壮大な書物になってしまいますが、自らの日常生活に置き換えたり、紐づけたりできる内容も多く含まれており、何度でも、繰り返し読み返すことによって、異なった視点や考察が与えられる書物が、The Book　聖書なのです。

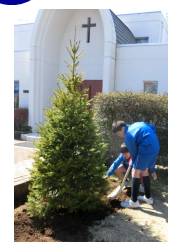
「聖書はすべて神の霊の導きに下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。」(テモテへの手紙二 3章16節)

校内行事報告

学習発表会

今年度の学習の成果を保護者の方々にご覧いただく学習発表会。終わった後の子どもたちの感想です。「たくさんの人がいて驚いて緊張した。」と1年生。「家でたくさんほめられてうれしかった。」と2年生。「失敗したこともあったけどやりきった！達成感あり！」と3年生。上級生はプレゼンテーションの方法を自分たちで考え、評価し合い改善し、担任はその自主性を尊重し、備えました。保護者の皆さまが子どもたちの1年間の学びのエッセンスをご覧になり、その成長を喜んでくださったことに感謝します。来年度に向けて大きな一歩になりました。

卒業記念品・ドイツトウヒ植樹式



今年度の卒業生たちは、学校正門のシンボル的な樹であったもみの樹が近年の猛暑で立ち枯れたため、ドイツトウヒをプレゼントしてくれました。その植樹式を卒業生たちと保護者のみなさんと一緒に行いました。一人ひとりの成長と共にこの樹も成長し、子どもたちが学校に・教会に来てくれる時にはこの樹を見上げるようになります。在校生も、これから入学してくる子どもたちも、そして教職員もこの樹の下で語らい、贈ってくれた卒業生たちを感謝をもって思い出す大切な樹になりました。

卒業祈祷週

3月2～6日は卒業祈祷週で、総題は「14匹の小羊」。テーマ聖句：詩編23編1節「主はわたしの羊飼い、わたしには何も欠けることがない。」を掲げました。「お祈りはわたしのこれからの人生の支えです。」「共にいてくださる神様はわたしに安心感を与えてくださいます。」「お祈りできることを喜び、これからも神様と共に歩むことを大切にしていきたいです。」と語った14名の子どもたちでした。お昼休みには「祈りの時間」をもち、6年生と下級生が祈り合う姿が多く見られ、祈りに包まれた特別な1週間になりました。

卒業生を送る会

恒例の5年生が企画・実施する「卒業生を送る会」。学習発表会やまとめの学習が多くある短い3学期のなか、のんびり過ごしている時間はないほど準備に忙しかった5年生たちでした。お世話になった6年生への感謝の思いを込めて、1月から飾りつけの準備、6年生へのインタビュー、シナリオ作り、動画編集、パワーポイントを使ったプログラム進行など、計画的に一人ひとりが多岐にわたる役割を責任をもって担い、協働して創り上げました。また1～5年生が準備した感謝のプログラムは、みんなのお手本であり、あこがれの6年生への「ありがとう」がいっぱい詰まっていました。6年生は始めから終わりまで感動でたくさんの涙を流していました。

卒業式

3月15日(日)第77回卒業式を挙行し卒業生14名を礼拝をもって送り出しました。卒業祈祷週と同様に「詩編23編1節」を卒業式のモットーとして掲げました。入学したのは2020年4月でした。しかしコロナ禍真っただ中で、夏服を着て6月の入学式になりました。できない、叶わない、残念な思い、辛抱することの多い下級生の時期を過ごしましたが、子どもたちはいつも神さまに祈り求め、その時にできたこと、与えられたことに感謝できるようになりました。心の傷みを知っているので、周りの人の傷みに寄り添うことができるようにもなりました。心身共に神さまが大きく成長させてくださいました。神様のご計画の新しい道を歩み出した14名の卒業生たちがこれからも豊かに祝福されますようにお祈りしています。

3学期も皆様のお祈りに支えられ、無事に終えることができました。ご支援を感謝いたします。
4月6日まで春休みとなり、7日には新年度始業式、8日には入学式を挙行いたします。
2026年度もお祈りをもってお支えのほどよろしくお願いいたします。

本校ホームページからInstagramもご覧ください。https://www.tokyosaniku.ed.jp/